

2015年3月期は、世界経済は緩やかに回復を続けました。ミネベアは、これまでに取り組んできた収益改善の諸施策と適切な準備が功を奏し、業績を更に大きく伸ばすことができました。主力製品であるボールベアリングの外部販売数量の増加、LEDバックライトの需要拡大に加えて、黒字基調が回復したモーター事業などにより、当期連結売上高は5,006億円となり、創業以来はじめて5千億円を超えました。営業利益は601億円、純利益は399億円となりそれぞれ過去最高を更新いたしました。

2015年3月期の主な施策

2015年3月期は、ベアリングは引き続き販売数量の拡大を進めました。またスマートフォン向けバックライトなどの需要拡大が見込める製品分野では、スピーディーな供給体制構築を行い、機動的に生産数量を引き上げる事による成長を達成する事ができた1年でした。

機械加工品分野では、2014年8月に中国のベアリング製造会社である“慈溪新美培林精密軸受有限公司”を買収し子会社といたしました。次いで12月には、航空宇宙産業向け製品開発・販売拡大を目的として東京都羽村市の株式会社塩野製作所より全事業譲渡を受けて、塩野プレジジョン株式会社を設立いたしました。

電子機器部品分野では、LEDバックライトについては、需要の急拡大に対応するため、タイ・ロッブリ工場、カンボジア工場、中国・西岑工場などへの積極的な増設投資を実施いたしました。さらに、2014年11月には、東南アジア物流センターとして整備を進め使用しておりましたバンワ工場を、バックライト部品製造工場として転換する事を決定し、即日工場の改装を開始いたしました。

モーター分野においては、生産性改善などを徹底的に追求した結果黒字が定着し、引き続き事業構造改革も進めています。これらの施策に加えて、一昨年発表した「5本の矢」戦略で掲げている照明機器分野と、計測機器分野の売上拡大を念頭に、スイス無線技術会社Paradox Engineering社、および岩崎電気株式会社・コイズミ照明株式会社との合弁会社であるMIK Smart Lighting Network株式会社の技術力や人的総合力を集めて、新製品や新しいサービスを開始するための基盤づくりを進めました。

今後、照明市場では、スマートシティ、スマートビルディングといった分野への製品や様々な部品の供給を行い、第一歩としてカンボジア、プノンペン市におけるスマートシティ構想の実現に向けた基礎的な調査を完了し、2016年3月期の



代表取締役 社長執行役員
貝沼 由久

実施を目指します。

一方、計測機器分野では2015年2月にドイツ計測機器製造会社である、Sartorius Mechatronics Tank & Hopper社とその子会社(以下、ザルトリウスインテック)を買収し、販売製品とその地域を大幅に拡充いたしました。

2015年3月期を振り返って

日本経済は、政府による経済対策及び日銀による金融緩和並びに為替市場での円安により、企業収益が改善され、株高や雇用環境の改善に伴い個人消費も堅調に推移しました。米国経済も、設備投資の増加に加えて雇用の改善と共に個人消費の増加など緩やかな景気拡大が続きました。欧州経済は、ギリシャの財政問題、ウクライナ情勢の緊迫、そして原油価格の下落により低成長が続きました。アセアン諸国では、緩やかな回復が見られました。

当社グループは、かかる経営環境下で収益力のさらなる向上を実現するために、徹底したコスト削減、高付加価値製品と新技術の開発及び拡販活動に注力してまいりました。

機械加工品セグメントでは、主力製品であるボールベアリングの主要市場からの需要が高まり外部向けの販売数

量が月次で1億5千万個を超える月が多くなりました。自動車向けは、省エネや快適性、安全性のための需要増で販売数量が大きく増加しました。これにより高水準の生産が続いたことで、製造原価の低減が進み、利益は前期に比べ大幅に増加しました。ロッドエンドベアリングは、新型機への更新等で民間航空機需要の堅調な推移に伴い受注が増加し、売上、利益とも増加しました。ピボットアッセンブリーは、HDD市場が横這いで推移する中で、主としてデータセンター向け等のハイエンド製品のシェア拡大により売上、利益ともに増加しました。

電子機器セグメントは、液晶用バックライトの需要がスマートフォンを中心に拡大する中で、技術力、圧倒的な供給力で当社が優位性を持つ超薄型の導光板がハイエンド製品向けに急伸し、顧客層の拡大とシェア上昇に伴い、売上、収益ともに前期に比べ大幅に増加しました。計測機器も、ザルトリウスインテックの買収により顧客層の拡大に努める中で売上、収益は堅調に推移しました。さらに、複合製品も売り上げが伸び収益も改善しました。HDD用スピンドルモーター及び情報モーターも売上が増加しました。

その他のセグメントは、金型及び内製部品が主な製品であり、いずれも増収となりました。

付加価値な特殊ベアリング分野での拡販を見込んでおります。ロッドエンドベアリングについては、世界規模での生産・効率の向上をはかり、デリバリー及びコスト面での優位性を強化し、成長する航空機市場向けの拡販をはかります。

電子機器セグメントの主力製品である液晶用バックライトは、ハイエンドスマートフォン向けの超薄型導光板等の高付加価値製品の供給力増強に努めており、新規顧客の開拓と積極的な拡販及び新製品の投入を進めることで、売上、利益の大幅な増加を見込んでおります。計測機器については、センサーとしての機能を活用した新製品の開発と自動車市場向け製品の拡販を進めるとともにザルトリウスインテックとのシナジーにより大幅な増収を見込んでおります。情報モーターおよびHDDスピンドルモーターでは、さらなる品質の向上と原価低減をはかり、自動車、サーバー向けの高付加価値製品の拡販を進め、さらなる業績の向上をはかります。

その他のセグメントでは金型及び内製部品の部品精度の向上に注力することで、完成品部門での生産効率の改善とさらなる品質の向上を目指します。

売上および営業利益の目標と新中期事業計画・「新5本の矢」・「新製品5本の矢」成長戦略

2016年3月期の業績見通し(2015年5月時点)

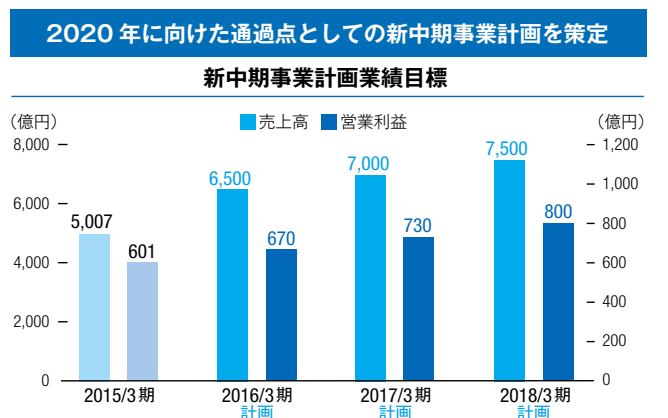
2016年3月期の日本経済は、雇用改善及び賃上げ効果により内需を中心に堅調に推移するものと予想されます。米国経済は、ドル高などにより企業収益に鈍化の兆しが現われてきているものの個人消費は底堅く、今後も緩やかな景気回復が進むと予想されます。一方、欧州経済は、緩やかに持ち直すと予想されますが、ギリシャの財政やウクライナ情勢等、問題の解決には更に時間が掛かるものと予想されます。アジア経済は、中国の成長率は鈍化したものの、内需が堅調で緩やかな景気回復が続くと予想されます。また、他のアジア諸国も総じて緩やかな回復が見込まれます。

このような状況の中で、当社グループは主力製品である液晶用バックライトの大幅な売上の増加と、ボールベアリング、モーター等の好調な売り上げが予想されるため**2016年3月期は、売上6,500億円、営業利益670億円、経常利益660億円、純利益480億円**を見込んでおります。

機械加工品セグメントでは、主力製品であるボールベアリングは、世界的な需要の増加に合わせて、引き続き自動車業界・情報通信機器関連業界等への積極的な拡販と新製品の投入、新市場への参入を進め、業績のさらなる向上をはかります。また、ドイツ子会社のmyonic社では、より高

2015年3月期は創業以来はじめて売上高5,000億円を越えました。この結果は、2014年5月に発表をしました売上高5,000億円、営業利益500億円を目標とした中期事業計画を2年前倒しで達成しました。そこで当社としての新たな目標として、売上高1兆円または営業利益1,000億円のどちらか早い方を2020年3月期までに達成するという中長期の目標を設定して発表しました。この大きな目標を達成するためのマイルストーンとして、新しい中期事業計画を策定し、その1年目の計画は2016年3月期は売上高6,500億円、営業利益を670億円といたします。

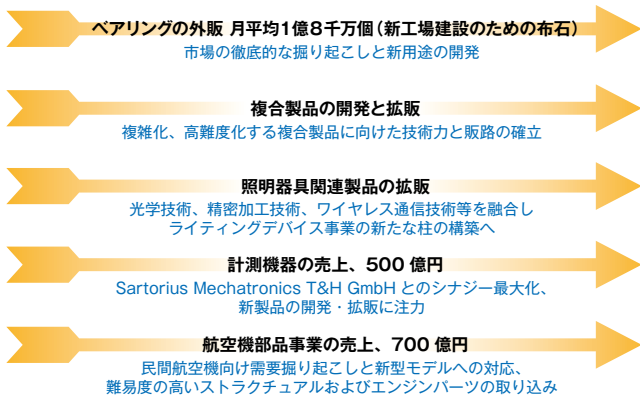
新中期事業計画 数値目標



2013年11月に発表したミネベア100周年のための「5本の矢」戦略もベアリング事業での販売数量の伸びと、計測機器事業でのドイツのザルトリウスインテックの買収によってその一部が達成されました。そこで、これを「新5本の矢」戦略として見直しをいたしました。ベアリング、複合製品、航空機をはじめとして、照明機器分野、計測機器分野にますます力を入れてまいります。

新「5本の矢」戦略

未来への種まきから成長の次なるステージへ



さらに、次の成長を確実なモノにする為に「新製品5本の矢」戦略も策定いたしました。これまで育てて参りました、要素技術とアセンブリー技術を組み合わせたより高度なスマートシティー用街路灯システムやビル管理システム、加工機械の補助装置であるウェイビーノズルや資本参加を行ったJAPAN 3D DEVICES (J3DD)社が製造するヘッドアップディスプレイ用の凹面鏡などの新製品、農業・構築物・医療に使用するスマートセンサー、様々な光の調整が可能となるスマートアジャスタブルLEDライト (SALIOT) など新製品を創り出してまいります。

「新製品5本の矢」戦略



これらの新製品の中には、Paradox Engineering社による極めて拡張性の高いネットワークの構築が可能な無線技術などを組み込むことで高性能、高信頼性を実現致します。

情熱は力、情熱はスピード、情熱は未来

当社グループは、ニッチ市場で高い技術を提供する事で高いシェアを確保し、高いマージンを得た製品を増やす戦略によって「ミネベア100周年」に向けた基礎固めを着実に進めてまいりました。その過程の中で、2015年3月期は過去最高の結果を残す事ができました。

ここで、さらに高い頂きを目指す為に発表したのが「1 and/or 100 by 2020」と言う中長期の目標です。つまり、売上高1兆円または営業利益1000億円のうちどちらか早い方を達成すると言う新しい目標です。

当社の製品は主力の小径/ミニチュアボールベアリングをはじめとして、HDDビボットアセンブリー、航空機用ロッドエンド、高級薄型スマートフォン用LEDバックライトなどの製品で高い市場シェアを実現しています。これらの製品に加えて、新しい製品を数多く増やすことで、100周年を迎える未来の世界に、「なくてはならない部品メーカー」となることを目指し、従業員一同たゆまぬ情熱をもって邁進していく所存です。

株主の皆様には、ミネベアグループに対し引き続きご理解とご支援を承りますようお願い申し上げます。

2015年7月
代表取締役 社長執行役員

貝谷由久